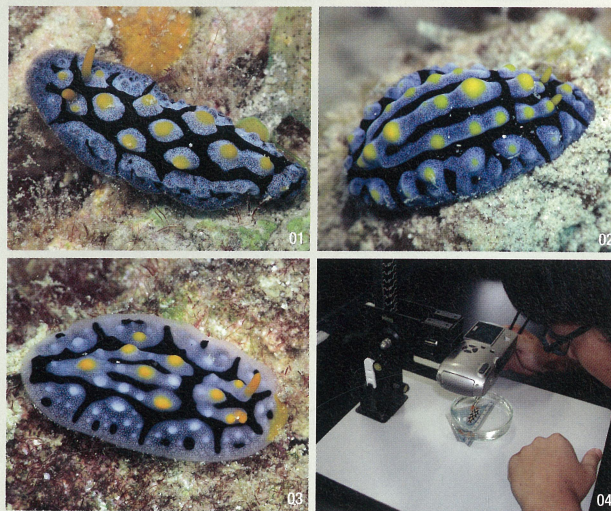


広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

Text=Rie Nakano
Photo=Rie Nakano, Aoi Kojima and Jun Imamoto

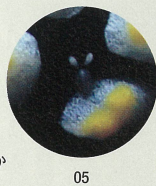
ある つきあつてから 惚れることも 第12回



(01) フリエリイボウミウシ。和名のフリエリは属名の *Fryeria* (ラテン語) に由来するが、最近は別属への変更を提唱する研究者もいる。体長は最大で40mm程度。背面の縁に黒色ラインが半円状に入ることでも他種と区別できる。(02) タテヒダイボウミウシ。青黒黄の3色構成なのはフリエリと同じだが、黒色ラインの入り方が異なる。(03) 背面の縁に黒色ラインがたまたま半円状に入っているボンジイボウミウシ。しかしフリエリにはこのような白色突起は入らない。(04) 体サイズを計測しつつの写真撮影。真上から撮影するのが鉄則。(05) 撮影したフリエリ写真を拡大して見たらコヘボダ(先月号参照)が寄生していた。広瀬研ではコヘボつき個体はコヘボ研究者の上野大輔君(広島大学大学院)に譲渡することになっている。美しき協力関係哉。写真01, 02, 03=今本淳, 04=中野理枝, 05=小島葵

琉 大理学部に進学してヨカタ、と思う理由のひとつは、海がとつても近いこと。大学から最も近いダイビングポイントまで、車でわずか20分だ。そんな地の利を生かし、同じフィールドに1年通って、扱う動物の月ごとの個体数の変化などを調べて卒業論文を書く学生は多い。しかし卒業後すぐに就職する予定の学生は3年生の冬から4年生の初夏にかけてが就活で忙しく、春にフィールドに行けない可能性が高い。だから就職組が毎月の観察を必要とする卒業研究を行うのは難しい。ウミウシのように春先に多く見られる生物を卒研で扱うのも難しい。

それでも昨春秋、「どーしてもウミウシで卒論が書きたいっ」という就職組の学生が広瀬研に入ってきた。深野翔平君といい、スキューバの経験本数も150本程度あるという。



05

「深野君、イボウミウシでいい？」
「えーっと、ウミウシならなんでもいいです」
「一番よく見られるのはコイボウミウシだけど」
「コイボはイボ突起の数が多すぎてちょっと……」
「コイボの次に多いのは？」
「タテヒダイボ、ソライロイボ、フリエリイボです。深野君、分類できる？」
「フリエリならできます。背面の縁に黒色ラインが半円状に入っているのがフリエリです」
(中野注:タテヒダイボは背面の正中線上に黒色線が入らず、腹足面に黒い線が1本入る。ソライロイボは正中線上の黒色ラインが触角の前方で分岐してY字になり、腹足面には線は入らない)
「1年間で何個体とれるかな。100は厳しくても50はほしいな」
「50個体くらいなら。1ダイブ1個体くらいいけます」

捜せ、とのミッションが下った。ミッションは深野君の内定獲得後も続き、やがてフリエリイボウミウシは広瀬研では「フカノウミウシ」と呼ばれるようになった。

10 月末のある日、深野君と一緒にスキューバに行き、実験室に持ち帰ったフリエリを顕微鏡で見た。フリエリの水色部分は顆粒状の色素の一粒一粒が瑞々しく輝き、黒色部分にはベルベットのような光沢があった。

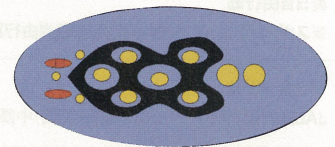
思わず「フリエリって、きれいな……」とつぶやいた。
すると、近くで他個体のサイズを計測していた深野君が振り返り、「きれいでしょ」と言った。
まるで自分の彼女を自慢するかのようだった。

研究スタートからほぼ1年。深野君の手元には約40個体分のフリエリイボのデータがある。さてどんな結果が出るでしょう。番号先でお知らせしますね。

「就 職する学生にとって卒論は、たぶん人生で最初で最後に書く論文。だからできるだけ好きな動物で書けるようにしてあげたい」とお考えの広瀬先生は、「春先ではなくても多く見られるウミウシには何がいますか」と中野に聞いた。
「えーと、チドリミドリガイ、ムカデミノウミウシ、イボウミウシ類ですね」
「なるほど(中略)、ではイボウミウシの体サイズとイボ数の相関関係について調べるのはどうかな」

こうして材料は決まった。方法は、まず潜ってフリエリイボウミウシを捜す。見つけたら水深と水温を計測。撮れる時は写真を撮って、研究室に持ち帰る。撮影台に置き、毎回同じ方法で写真を撮りサイズを計る。イボ突起の配置と数を調べて、模式図に書き込み統計をとる。地道だがウミウシ捜しが好きな人には面白い作業である。

しかし深野君は就職組だ。内定がもらえないうちは海に行けない。そこでゼミメンバー全員に、海に行ったら自分の材料の他にフリエリイボも



深野君考案、フリエリイボウミウシのイボ突起の基本パターン。背面正中線上に5個の黄色イボ突起が並んでいる。その両側に2個ずつ黄色イボがある。触角(オレンジ色で表示)のすぐ後ろにも左右1個ずつ黄色イボがある。この他のイボ突起を個体ごとにパターン図に書き込み、体サイズとイボ突起の数の関係や規則性を調べるのだが、なぜか体長10mm程度の小型個体が見つけれない。小型個体がないとサイズとイボ数が比例しているとは言えない。近縁種のタテヒダイボ(最大で体長100mm)では体長5mmの個体が見つかったのに……。イボの道も一筋縄ではいかない。

文=中野理枝

Profile>> '87年OW取得。'96年頃ウミウシに開眼。小野篤司さんの「ウミウシガイドブック1」「沖縄のウミウシ」を編集。「本州のウミウシ」を編集・執筆。'09年4月、琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事の続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に邁進中。6月に福音館書店から絵本「ウミウシ」を上梓。

➔hofukutei.exblog.jp

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>> '91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、'97年より琉球大学に勤務。入試のシーズンが到来しました。受験生の皆さんが本番で実力を発揮できることを願っております。[琉球大学] もよろしくね。

➔www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ